

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間: 2020/10/01 ~ 2020/10/31)

1. 勉学の状況

10月に入り、授業の進み方やオンライン授業独特の雰囲気などにも慣れ、勉強に集中できるようになってきました。受講している2つのコースについて10月にあったことを書きたいと思います。

1. Introduction to Linguistic Analysis (LING 101)

この授業は4~5週の講義の後に小テストという規則正しいリズムで進んでいくので、とてもやりやすく感じています。10月は主に音韻論(Phonology)の講義で、私は千葉大学の授業で音韻論を叩き込まれていたのですが、これまでの最高得点である90点をたたき出すことができました！英語の母語話者も多くこの授業を受講しているようですが、音声学や音韻論は母語話者にとっても難しいようで平均点が70点と、意味論の平均87点に比べると低い結果となっていて、おもしろいなと感じました。次は形態論(Morphology)の内容に移っていくので、とても楽しみです。

2. Introduction to the Teaching of English as a Second Language (EDPY 416)

10月の前半には中間試験が行われました。日本で受けてきたような知識を問うような試験ではなく、授業で学んだ英語の教授理論の1つを用いて自分なりのアクティビティを考えるという問題など、思考力が問われるようなものでした。

また、この授業では、1人1回、3~4人1組になって論文の要約をグループでプレゼンしなければならないのですが、私のグループの番が10月28日に回ってきました。これまでディスカッションなどでも自分の意見をうまく伝えられていなかったり、授業内容も難しいと感じていたりしたので、同じグループメンバーにも迷惑をかけないように入念に準備してプレゼンに臨みました。まだ先生からのフィードバックが返ってきてはいませんが、個人的な手ごたえは良く、グループメンバーからも「Good job!」と言われて達成感を味わうことができました。また、オンライン学習でなかなか友達ができていなかったのですが、このグループプレゼンを通して中国からの留学生で日本のこともよく知っている学生と仲良くなり、よくチャットで話すようになったことも大きな収穫となりました。

2. 生活の状況

2. 生活の状況

日本で生活しているので、生活の状況について特記することが見当たらないのですが、オンライン留学という観点から書いていきたいです。

アルバータ大学のオンライン授業はZoomでの講義をベースとして進んでいきます。提出課題やテストがこまめにあるので、自分の中でのスケジュールをしっかりと立てて学習を進めていくことが大切かなと思います。また、日本でオンライン受講しているからこそその良い点というものも感じられるようになってきました。例えば、オンライン授業で学んだ内容をもう一步深めたいと思ったら千葉大学図書館で本を借りて日本語で勉強することができます。よく理解しないまま授業が進んでしまう前に、自分でカバーできるのでとても便利に感じています。